

令和5年度 自己評価表

中長期目標 (学校ビジョン)	技術を研ぎ、身体を鍛え、心を磨くことをとおして、優れた知性や創造性を身に付けたくまい力と、感動したり他者を思いやるあたたかな心を兼ね備えた、健全で個性豊かな人材の育成をめざす。	今年度の重点目標	１．学力の向上 ２．豊かな人間性の育成 ３．キャリア教育の充実と進路実現 ４．学校業務改善への取り組み
-------------------	--	----------	--

評価基準 A：十分達成〔100％〕 B：概ね達成〔80％程度〕 C：変化の兆し〔60％程度〕 D：まだ不十分〔40％程度〕 E：目標・方策の見直し〔30％以下〕

年 度 当 初				中間評価（9月）			
評価項目		評価の具体項目	現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価 改善方策
1	学力の向上	① 授業改革と学力の向上	○各教科で授業の工夫改善に努めている。「私は授業に満足している」とする生徒の割合が86％ ○授業でのICT活用が増えてきた。「ICT機器を活用した授業がよく行われている」とする生徒の割合が67％ ○STEAMLabの整備、STEAM教育研修会、公開授業など、STEAM教育の実践に向けて取り組んでいる ○基礎力診断テストの分析や現状把握に努めている	○「私は授業に満足している」とする生徒の割合が80％以上を維持している ○「ICT機器を活用した授業がよく行われている」とする生徒の割合が70％以上 ○鳥工版STEAM教育を通して、生徒が教科横断的・融合的によく学んでいる ○基礎力診断テストの評価が向上している	○授業公開等を通して、授業をより改善するための意見交換を各教科で継続する ○教科会等を通して、ICT活用例を積極的に共有する ○STEAMLabを積極的に活用しながら、研修会や公開授業で得たものを各教科で応用・実践する ○基礎力診断テストの結果を教科会等で分析し、授業にフィードバックする	○7月の授業評価アンケートの結果を踏まえ、各教科で授業の内容や手法の工夫改善に努めている ○多くの教科でICT機器を活用した授業実践に努めている ○授業や放課後など、STEAM Labを積極的に活用している。また10月に学力向上職員研修会を実施する ○基礎力診断テストの結果を職員間で共有しているが、授業へのフィードバックという点ではやや不十分である	B ○公開授業等を通して、授業をより改善するための意見交換を行う ○教科会等を通して、ICT活用例を積極的に共有する ○STEAM Labの積極的活用を継続する ○基礎力診断テストの結果を教科会等で分析し、授業にフィードバックする
		② 主体的な学習態度と実践力の育成	○授業の規律を随時周知し、「予鈴着席など規律ある態度で授業に臨んでいる」とする生徒の割合が89％ ○知的好奇心を刺激する授業づくりに努め、「意欲的に授業に臨んでいる」とする生徒の割合が86％ ○面談を通じて日々の自宅学習に対する姿勢を確認し、R4.11月自宅学習時間調査1日平均117分（R3：100分、R2：80分） ○資格取得・検定合格に向けて補習指導を行っている	○「予鈴着席など規律ある態度で授業に臨んでいる」とする生徒の割合が80％以上を維持している ○「意欲的に授業に臨んでいる」とする生徒の割合が80％以上を維持している ○11月自宅学習時間調査が1日平均120分程度を維持している ○多くの生徒が資格取得・検定合格に向けて努力している	○「生活指導方針」に基づき、授業規律の周知・徹底を継続する ○先端分野（Society5.0）やSTEAM教育を念頭においた授業研究を継続する ○担任・学年団等による面談をきめ細かく行い、学習意欲や進路意識を高める ○資格・検定の情報を生徒に周知し、面談等を通じて取得を促す	○予鈴により授業前に準備をする意識は高まっている ○先端分野やSTEAM教育を意識しながら、各教科で知的好奇心を刺激する授業に努めている ○生徒面談を通じて学習に取り組む態度を確認し、自宅学習時間が目標の120分程度を上回っている（自宅学習時間調査／R4.6月：150分、R5.6月：138分） ○資格・検定の案内を行い、進路意識を高めている	B ○早めの授業準備など授業規律の遵守を指導する ○これからの社会で活躍するために必要な力を意欲的に身に付けられるよう、授業を継続的に工夫する ○面談を適宜行い、授業態度や進路意識を高める ○日々の学習と進路意識の向上を繋げていく
2	豊かな人間性の育成	① 互いを尊重する態度と社会性の涵養	○面談、アンケート、相談室・保健室等を通じて、生徒の悩み等を早期に把握し、速やかに対応している ○人権教育LHR、性に関する指導LHR、5S・あさひの指導等を通じて、互いを尊重し合う意識を高めている ○校内WEB掲示板等を通じて、人権教育関係研修会への積極的な参加を呼びかけ、参加者はその成果を様々な場面で指導に活かしている	○悩み等を相談でき、一人一人が安心した学校生活を送っている ○一人一人が人権の尊重された学校生活を送っている ○日々の生活の中で人権問題に気づき、考えながら学校生活を送っている	○面談、アンケート、相談室・保健室等を通じて、生徒の悩み等を早期に把握し、速やかに対応する ○人権教育LHR、性に関する指導LHR、5S・あさひの指導等を実施し、互いを尊重する意識を高める ○人権教育関係研修会等に積極的に参加し、その成果を様々な場面で指導に活かす	○面談、アンケート、相談室・保健室等を通じて、生徒の悩み等を早期に把握し、速やかに対応している ○人権教育LHR、5S・あさひの指導等を実施し、互いを尊重する意識を高めている ○人権教育関係研修会等の参加者が少なく（R5.9月末現在：27％）、その成果を様々な場面で指導に活かせていない	C ○面談、アンケート、相談室・保健室等を通じて、生徒の悩み等を早期に把握し、速やなに対応を継続する ○互いを尊重する意識を高める指導を継続する ○人権教育関係研修会等に積極的に参加することを促し、その成果を様々な場面で指導に活かせるよう情報を提供する
		② 健全な心身と社会貢献精神の育成	○各種安全教室、朝の交通指導、5S・あさひの指導等を行い、「情報モラル、交通ルール・マナーを守るよう心がけている」とする生徒の割合が94％ ○部活動の大会中止が多い中、1月末累計で中国大会に74名が出場した ○テクノボランティアは実施したが、桜ヶ丘グリーンゾーン活動は中止となった ○2019年度比で2月末で可燃ゴミ排出量36.4％減、電力使用量2.6％増であった	○「情報モラル、交通ルール・マナーを守るよう心がけている」とする生徒の割合が90％以上を維持している ○多くの生徒が部活動に熱心に取り組み、大会等で活躍している ○社会貢献の意識が高まり、ボランティア活動等に積極的に参加している ○環境改善の意識が高まり、2019年度比で可燃ゴミ排出量5％減、電力使用量1％減となっている	○各種安全教室、朝の交通指導を行い、また5S・あさひについて積極的に指導する ○ホームページや広報誌を通じて、部活動の成果や成績を積極的に公開し、意欲を促す ○様々な機会を通じて社会貢献への意識を高め、ボランティアへの積極的な参加を呼びかける ○可燃ゴミ排出量、電力使用量について、毎月の達成状況を公開し、教職員や生徒への啓発を行う	○各種安全教室は計画通り開催できている。朝の交通指導を行い、交通安全指導を含め、「5S」「あさひ」の指導に努め、効果を発揮している ○ホームページ等を活用した部活動の成果や成績に関する広報活動に努めている ○ボランティア活動に生徒60名が参加した（9月末現在）。また、桜ヶ丘グリーンゾーン活動を実施した ○環境ポスターの制作やTEAS講演会等を行った。可燃ゴミ排出量、電力使用量とも年度当初は達成できていたが、猛暑の影響で電力使用量は夏以降達成できていない	C ○薬物乱用防止教室を予定通り開催する。また、朝の交通指導を継続し、「5S」「あさひ」についても積極的に指導する ○ホームページだけではなく、その他の方法についても検討し、部活動の情報発信に努める ○ボランティア活動等を通して、地域貢献に努める ○可燃ゴミ排出量、電力使用量について、毎月の達成状況を公開し、教職員や生徒への啓発を行う
3	キャリア教育の充実と進路実現	① 専門的な知識・技術の習得	○企業見学と鳥工版デュアルシステムは実施したが、インターンシップは中止となった ○鳥工TECは実施し、課題研究発表会はリモートで実施した ○一人一資格取得率・検定合格率は全体で88.0％（3年95.1％、2年90.5％、1年74.1％）。資格取得・検定合格に向けて指導を行い、ジュニアマイスターの特別表彰を受賞した	○専門的知識・技術に加え、社会人としての資質を身につけている ○学習成果の発表・展示に向けて、生き生きと「ものづくり」に取り組んでいる ○年間の一人一資格取得率・検定合格率が60％以上、かつ3年間で一人一資格取得率・検定合格率が90％程度を維持している	○企業見学、鳥工版デュアルシステム、インターンシップ等を行う ○鳥工TEC、津ノ井地区文化祭、とっとりものづくりフェスタ、課題研究発表会等において、学習成果の発表・展示を行う ○資格・検定の取得に向けてきめ細かく指導を行う	○企業見学、インターンシップ、鳥工版デュアルシステム等を実施できた ○鳥工TEC、津ノ井地区文化祭、とっとりものづくりフェスタ、課題研究発表会等は今後実施予定（9月末現在） ○資格・検定の取得に向けてきめ細かく指導を行い、1年生の計算技術検定の合格率が上がった。また、ものづくりコンテスト中国大会電子回路組立2名、溶接2名出場した。ジュニアマイスター顕彰認定（前期）は11名	B ○来年度も実施し勤労観や社会人としての資質を育てる ○状況に応じながら計画的に実施していく ○今後も様々な資格検定の奨励、案内をしていく
		② 勤労観・職業観の育成と進路指導の徹底	○校内外と連携して進路行事・進路指導を実施し、「自らの進路に対する意識が高まっている」とする生徒の割合が89％ ○就職一次試験の合格率が高く（R4:95％）、推薦制度等を活用し12名が大学に合格した ○個々の進路実現に向けて、面接指導・受験対策等を実施し「生徒一人ひとりに適した、きめ細かな進路指導ができています」とする保護者の割合が上昇した（R4:80％、R3:68.7％） ○ICT機器を活用した、進路学習、情報の提供、受験対策が充実しつつある	○各進路行事・進路指導を通して「自らの進路に対する意識が高まっている」とする生徒の割合が80％以上を維持している ○就職一次試験の合格率90％以上を維持し、また推薦制度等を活用し第1希望の学校に合格している ○「生徒一人ひとりに適した、きめ細かな進路指導ができています」とする保護者の割合が80％以上 ○ICT機器を効果的に活用し主体的な進路学習を行っている	○各事業所、外部機関等、校内外と連携・情報共有し、各進路行事を充実させる ○SPI・面接・小論文模試等、個々の就職試験や進学受験に応じてきめ細かく指導する ○進路行事や各種情報を保護者に周知し、また進路相談に対して丁寧に対応する ○ICT機器で進路情報の提供・活用ができるよう、環境を整備する	○各事業所、外部機関、校内各分掌と調整・情報共有して各進路行事を予定通り実施している ○全教職員協力のもと面接指導を行い、自信をもって試験に向かわせることができた。進学受験について、個々の試験内容に応じて各科とも連携しながら取り組んでいる ○進路行事を実施しホームページ等で情報提供した。個別の進路相談に対して、校内外で連携し対応している ○クラスルーム、生徒玄関モニターを活用し進路情報の提供を行っている	B ○引き続き、個々の受験内容に応じて対応するとともに、取組内容、受験報告等次年度に引き継げるよう整備する ○充実した情報発信に努めるとともに、生徒や保護者からの進路相談に丁寧に対応する ○ICT機器による進路情報の提供、活用方法について他校の事例等も参考にしながら充実させる
		③ 地域や産業界との連携強化	○分野別進路ガイダンスを実施し、地域の企業の取り組みや魅力についての理解を深めている。「将来、鳥工で学んだことを活かし、地域産業を支え、地域に貢献したいと思っている」とする生徒の割合が80％ ○「学校は、学校の様子や特色、学校行事等について積極的に情報発信している」とする保護者の割合が77％。津ノ井地域からも高い評価を得ている	○地域に貢献する人材としての自覚をもっている。「将来、鳥工で学んだことを活かし、地域産業を支え、地域に貢献したいと思っている」とする生徒の割合が80％以上を維持している ○「学校は、学校の様子や特色、学校行事等について積極的に情報発信している」とする保護者の割合が80％以上。津ノ井地域からも高い評価を得ている	○進路ガイダンスの機会を進路選択に生かすよう、きめ細かな面談等を継続する ○ホームページの充実及びホームページ以外のSNSも併用した方法も検討する。また、津ノ井地域懇談会で本校を積極的にPRするとともに、意見交換・情報交換を行う	○10月に分野別進路ガイダンス(1・2年対象)を実施する予定である ○出前授業や中学生体験入学を実施し、反応は良好であった。また、ホームページや学年通信(任意)等を通じて、学校の様子や特色等の発信に努めている	B ○進路ガイダンスの機会を進路選択に生かすよう、きめ細かな面談等を行う ○ホームページ等だけでなく、津ノ井地域懇談会(11月実施予定)においても学校の様子や特色等について情報発信・意見交換を行う
4	業務改善の取組	① 5SとQCストーリーの実践	○分掌業務を円滑に引継ぐため、電子ファイルの整理と業務のマニュアル化を進めたが不十分であり、学校行事のマニュアル化も必要である ○部活動の時間外業務は実施計画書で確認し、月30時間を超える場合は調整を促した ○時間外業務が月45時間を超えた職員は延べ13名で前年よりやや増加したが、年間を通じた時間外業務時間は令和3年度より概ね10％減少した	○分掌業務が円滑に引継がれ、また、特別活動や学校行事は業務マニュアル化されて、担当者が変わっても滞りなく業務が遂行できる ○部活動の実施計画段階で、時間外業務が月30時間以内に抑えられている ○時間外業務が月45時間を超える職員が0名で、年間通じての時間外業務は、前年度より減少している	○電子ファイルの整頓を確認し、業務マニュアル作成を促進、学校行事は終了時点で次年度に向けてマニュアルを整備する ○部活動実施計画書に記載された時間を確認する ○勤怠管理システムの定期的な入力を促す。また、AI採点の導入を検討する	○ネットワークフォルダ内を点検し、ファイルを整理した ○部活動実施計画書で時間外業務を確認し、月30時間を超える場合は調整を促している ○時間外業務について県外大会の引率に伴って増える例を散見するが、全体的にはコロナ禍による部活動制限があった昨年並みに抑えられている。9月末までに時間外業務で月45時間を超えた職員数は数名あった ○AI採点を試験的に導入、採点時間がかかり短縮できた	C ○電子ファイルの整理と整頓を進め、業務マニュアル作成につなぐ ○引き続き、部活動実施計画段階で時間外業務の削減につながるよう調整を進める ○勤怠管理システムへの入力を通して、時間外業務削減への意識づけを一層進める ○AI採点についてはさらに活用を進める

注) STEAM教育：科学(S)技術(T)工学(E)芸術・文学・歴史・経済など(A)数学(M)を融合させた学び 5S：整理・整頓・清掃・清潔・躰 あさひ：挨拶・作法・人の話を聴く テクノボランティア：学んだ専門技術を生かした地域へのボランティア活動
デュアルシステム：学校の授業と並行して企業で学習するシステム QC（品質管理）ストーリー：問題解決の手順